

第3回 あいち多文化共生タウンミーティング 2022 開催結果報告書

開催概要

テーマ「多文化防災とまちづくり」

日本では、地震や水害など、毎年のように様々な災害に見舞われます。日常でのつながりは非常時のセーフティネットになります。外国人県民も日本人県民も安全・安心な生活を送るためのまちづくりについて、話し合いました。

日時：2022年7月5日(火)14:00～16:30

場所：愛知県西三河総合庁舎 701会議室

当日の流れ

1 事例報告

- ①多文化防災ネットワーク愛知・名古屋 副代表 椿 佳代 氏
- ②日本赤十字社愛知県支部 事務局総務企画課 佐藤 遼 氏

2 ワークショップ

1 事例報告

多文化防災に取り組む2団体に、取組内容や課題等についてご報告いただきました。

①多文化防災ネットワーク愛知・名古屋

副代表 椿 佳代 氏

熊本地震をきっかけに、2016年に「多文化防災ネットワーク愛知・名古屋」を立ち上げ、言語や文化、国籍の違いに関わらず、誰もが防災に関心を持ち、災害時には互いに支え合うことができるよう、「多文化防災」をキーワードに活動しています。



災害時だけでなく普段から、多文化共生や防災に取り組んでいる団体や個人とネットワークを構築し、多文化防災に関する情報発信や普及啓発を行っています。



②日本赤十字社愛知県支部 事務局総務企画課

佐藤 遼氏

災害救護、医療事業、血液事業、看護師等養成事業など、幅広く事業を展開しています。

防災・減災分野では、自助・共助の意識の向上を目指し、災害時には外国にルーツのある方も地域を支える一

員となれるよう応急手当の講習普及や、外国人ボランティアの養成を行っています。

2016年には全国で初めて外国にルーツのある方を対象とした「赤十字救急法指導員養成講習会」を開催し、3名の外国人のボランティア指導員が誕生しました。

2 ワークショップ

ワークショップでは、グループに分かれ、多文化防災とまちづくりに関する課題と対応策について、それぞれのテーマで意見交換を行いました。ワークショップの最後には、発表を行い、県が取り組むべき施策等について、様々なアイデアを出していただきました。

A グループ：防災知識の普及

- ・体験者からの報告を聴くことができる機会をつくる
- ・情報をピクトグラム化し、分かりやすく伝える
- ・防災訓練等で避難所の再現を行い、体験しながら知ってもらえるようにする
- ・就業・就学中の防災訓練の増加
- ・外国人コミュニティを通じて当事者に情報を伝えるための行政の組織づくり
- ・防災士講習科目に多文化共生の要素を入れる



B グループ: 災害時の情報伝達

- ・交流やお祭りなどと一緒に災害について発信する場をつくることで楽しみながら集まれる場にする
- ・誰でも分かるマップづくり
- ・継続的に信頼性の高い情報を発信する
- ・多言語の発信ができる人のリストアップ
- ・企業から従業員に伝える
- ・外国人に多い若い世代に伝えて、そこから子どもやお年寄りに波及させていく
- ・CATVや地域 FM の活用



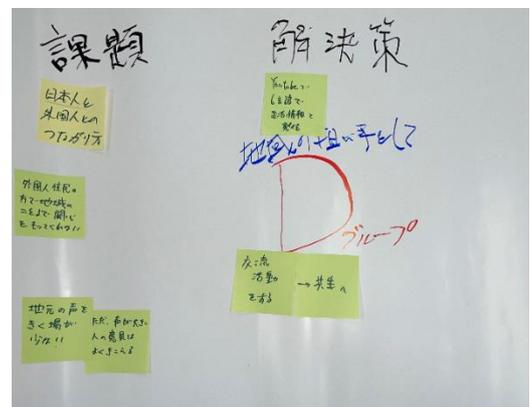
C グループ: 外国人住民の地域参加

- ・外国人だけでなく、日本人も参加しやすいように地域への多くの入り口や拠点の創設
- ・趣味や、やりたいことなどができる場所づくりをして、参加した方から地域について知ってもらうきっかけにしてい
- ・直接誘う
- ・良い事例の紹介・情報発信
- ・行政職員の意識づくり



D グループ: 外国人住民の地域の担い手としての活躍

- ・Youtube等での生活情報の発信
- ・交流活動を通じて地域の課題等を共有できる機会をつくる
- ・地域のイベント等にあまり参加していない外国人住民の方々と地域をつなぐ役割の人が必要
- ・地域住民の声を聴く場をつくる



1 このタウンミーティングを何で知りましたか。

チラシ	5
県のホームページ	3
知人からの紹介	0
その他	3
無回答	0

【その他】県からのメール、市からの情報提供

2 事例報告はいかがでしたか。感想をお聞かせください。(一つ選択)

とてもよかった	3
よかった	7
ふつう	0
よくなかった	0
全くよくなかった	0
無回答	0

感想の理由をお聞かせください。

- ・日本赤十字社さんの取組は非常に参考になった。いろいろな外国人が集まる場所で、講習会を地道に行うことで、防災効果だけではなく、多文化共生の実現にもつながると思う。
- ・様々な知らない活動を知って、もっと周りへもアナウンスすべきと感じた。
- ・様々な取組事例を教えてもらったので、今後の市の取り組みに反映できる箇所が分かった。自治会、赤十字、他市と様々な視点からの多文化共生を知れて勉強になった。
- ・事例は行政にとっての課題と直結しているものばかりで、非常に参考になった。
- ・日本赤十字社のフットサルとのコラボは良かった。多文化共生と言われてもピンと来ないので、スポーツと一緒に良い。
- ・自治体以外の団体の取組事例を知れたことで、方法等初めて知れたこともあり有意義だった。
- ・知らなかった取組みを知ることができ、参考になった。
- ・異なるジャンルのお話が聞けたから。
- ・日本赤十字社さんの活動は、初めてお聞きした。支援者を支援する、これまでの取り組みが功を奏しているのかなと思った。

3 後半のワークショップはいかがでしたか。感想をお聞かせください。(一つ選択)

とてもよかった	4
よかった	5
ふつう	0
よくなかった	0
全くよくなかった	1
無回答	0

感想の理由をお聞かせください。(複数選択可)

楽しかった	3
つまらなかった	0
活動を進める上での参考になった	7
新しい内容を聴くことができた	6
聞いた事がある話ばかりだった	0
多文化共生社会づくりに興味がわいた	3
人脈を広げることができた	5
多文化共生社会づくりのヒントを見つけることができた	3
その他	2

【その他】

- ・発言のタイミングが難しかった。県職員が入ってMCLしていただいた方が良かったかも。
- ・防災情報の発信にあたり、参考になった。

4 本日の内容や、愛知県の今後の施策等について、何か御意見があれば教えてください。

- ・是非、県内の外国人が多い施設、大学、住宅に多言語の防災情報、生活情報など積極的に発信して欲しい。(例: 外務省のたびレジみたいに登録して、最新の情報を発信していただければありがたい)。
- ・『外国の人も役に立ちたいと思っている。手伝いたいと思っている。』と言われた。この一言に尽きると思う。日本人の目線で施策を作るのではなく、外国の人の目線で施策を作ることも大切だと思った。
- ・特に課題に感じたことは、自治体や県が出す情報が、普及しきれていないということだった。今後の業務の課題にしたい。
- ・グループワークのグループ間が近くて、声が聞こえにくかった。